

## 発刊の言葉

本書「蒜山酪農地域の形成」は、三秋尚農学博士が蒜山地域を見据えて様々な角度からの調査を重ねて執筆された「蒜山酪農地域の形成、そして農山村の変容」全三部の中から、特に蒜山地域のジャージー酪農に関係する第二部を抽出して発刊させて頂くものであります。

三秋博士と蒜山地域との関わりは、岡山県職員として県庁畜産課、中福田家畜保健衛生所、酪農大学校等で活躍された昭和24年～38年頃で、三木行治知事が提唱された「科学する農業」「考える農業」の実践期、ジャージー牛導入による蒜山地域の酪農開始期と重なります。その後、岡山大学そして宮崎大学へと移られ、草地学や飼料作物学に関する果敢な研究活動を続けられながらも強い関わりを持った蒜山地域への思いは冷めることなく、宮崎大学名誉教授を退官されて故郷岡山に帰られてから蒜山地域の半世紀の執筆に向けた調査活動に入られました。

今日、畜産・酪農を含めて国内農業の全般が厳しい苦境に立たされておりますが、一方では食糧自給率の確保、食を含めた安全・安心社会の創造、自然や環境に配慮した循環型農業の実践など、国民消費者から集めている期待と注目も強く大きなものがあるという現実もあります。こうした中、蒜山地域ではジャージー酪農の振興発展による地域づくりを目指して様々な取り組みが行われております。

この書は、社会の潮流や畜産の情勢変動を受け止めて形成してきた蒜山地域の50余年間を、ジャージー酪農を軸として身近な表現で時系列に整理記述されており、綿密なデータに基づく時々の考察や将来への貴重な提言も付してあります。この度、当畜産協会からの発刊に快くご承諾頂いた三秋博士のご厚情に対して心から感謝申し上げますと共に、本書が多くの方々の胸に響き蒜山地域におけるジャージー酪農の振興発展に役立つことを念じて発刊の言葉といたします。

平成21年3月

社団法人岡山県畜産協会 会長 本松 允之